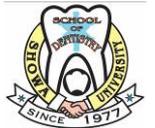




発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



歯科疾病構造の変化と高齢化の進行 に対応した歯学教育の推進

歯学部長 宮崎 隆

7月10日に、平成25年度から34年度までの「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針」(いわゆる健康日本21(第2次))が全部改正され、厚生労働大臣名で告示されました。厚労省ホームページで「健康日本21(第2次)」として紹介されていますのでご参照ください。



健康日本21は、健康増進法に基づき策定され、基本的な方向として、1)健康寿命の延伸と健康格差の縮小、2)生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、3)社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上、4)健康を支え、守るための社会環境の整備、5)栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善が打ち出され、それぞれの具体的な目標が設定されています。推進体制として歯科医師、歯科衛生士、歯科医師会の役割や幅広い医療職、保健担当者等との連携がうたわれています。

具体的に歯科に関しては、「歯・口腔の健康」に位置づけられ、歯・口腔の健康は摂食と構音を良好に保つために重要であり、生活の質の向上にも大きく寄与するとの基本的な考え方のもと、健全な口腔機能を生涯にわたり維持することができるように、疾病予防の観点から、歯周病予防、う蝕予防及び歯の喪失防止に加え、口腔機能の維持及び向上等について設定されています。

歯の喪失防止では、平成34年度には8020達成者の目標が50%(現在40%近くまで改善しているので間違いなく達成されるでしょう)、6024達成者の目標が70%です。その他、歯周病を有する者の割合の減少や乳幼児期・学童期のう蝕の無い者の増加も具体的に示されており、過去1年間に歯科検診を受診した者の割合を65%(現在は30%強)まで増やす目標も示されています。間違いなく、今後の10年間で国民の歯・口腔の健康状況は飛躍的に改善されるでしょう。学生教育もそれに対応するようにしなければなりません。

一方で、急速な高齢化の進行の中で、医療や介護・

福祉の現場ではチーム医療の充実が求められています。昨年3月に改訂されたモデルコアカリキュラムでは医学、歯学ともに、チーム医療が基本事項の上位に記載され、文科省は医学・歯学教育共通の課題としてチーム医療教育の推進を打ち出しています。その意味で、本学で推進しているチーム医療教育はまさに時代を先取りしてきたと言えます。

歯科医療ならびに歯学教育の変革期にあたり、私たちは改めて、時代にあった歯科医療ニーズと多様な歯科医療ニーズに応える人材養成に自信を持って取り組んでいきたいと考えています。

富士吉田自然教育園開園式が挙行了 れました

歯学部学生部長 上條竜太郎

本学では今年度、新しい施設として「昭和大学富士吉田自然教育園」を設けることとなり、平成24年6月23日、富士吉田校舎にて開園式(神事・直会式)が挙行されました。開園式には、堀内富士吉田市長、渡辺富士吉田市議会議長、刑部富士吉田教育委員長、鈴木松山連合会長他、多数のご来賓の臨席を賜り、本学からは小口理事長、片桐学長、小出富士吉田教育部長、倉田富士吉田自然教育園長、関係教職員に加え、寮祭期間中の一年生全員が出席しました。神事は、北口本宮富士浅間神社 神職殿を斎主として午前11時30分に開式、開墾之儀(盛り土に鍬入れをする儀式)ならびに玉串奉奠が行われ、12時に閉式となりました。続いて富士吉田校舎学生食堂で直会が行われました。

本園は本学学生に自然に接する機会を提供するもので、自然との触れあいを通じた情緒教育の場として、四季の草花や作物を育てて収穫すること、ログハウスの組み立てを行うこと等が計画されています。



D1 Placement Test および Science 系 基礎学力調査の結果について

教育委員長 井上美津子

本年4月に新1年生に対して Placement Test が実施されました。英語はTOEIC Bridgeに基づいて行われ、リスニング、リーディング合わせて180点満点のテストで、その得点に応じて1年時の英語の授業の習熟度別クラス分けが行われました。歯学部全体の成績は最高点、最低点ともに昨年よりアップしており、平均点も昨年より0.3点アップしていました。歯学部の各個人の成績は幅広く分布していましたが、4学部全体のトップは歯学部生でした。Science 系科目の基礎学力テストは生物、化学、物理の3領域で実施されましたが、各学部の特徴は昨年とほぼ同様でした。歯学部生の成績は3領域とも上昇していました。ただ、今年度の傾向として正答率の点数分布がさらに広がっていることから、獲得点数の低い学生へのフォローが必要と考えられます。また、これらの結果は初年時 Science 教育に反映されます。

新電子ポートフォリオシステムが稼働し ます

歯学教育推進室 片岡竜太

従来から電子ポートフォリオを「社会と歯科医療・チーム医療コース」を中心に、学外実習、コミュニケーション実習や学部連携PBLで活用してきました。学生は授業の前に目標を立て、授業が終わった後に、振り返り、自らの成長を将来にどうつなげるか考えてきました。ポートフォリオを書くことにより、目標設定能力、自己評価能力、将来を見つめ、現在の学びと結び付ける能力を獲得しています。



2009年に本学は卒業時に身につけているべき能力としてコンピテンシーを制定しました。コンピテンシーは卒業の要件であると同時に自らが身につけた能力の証であり、社会に対して自信を持って示すべきものです。これをわかりやすい形で残すために、新電子ポートフォリオシステムでは、技工物などの製作物、医療面接の様子の写真、ビデオなどの画像データも振り返りとともにポートフォリオとして残せるようにしました。学生は教員のフィードバックを励みに、患者さんのためにより良い医療ができるように頑張ります。

生涯を通して学び続けられるように、学生は自ら学ぶ習慣をPBL、情報リテラシーやeラーニングなどを通して学んでいきますが、その学びの様子を指導教員に伝えるまた自らの励みにするために、eラーニングと新電子ポートフォリオシステムを連携させて、電

子ポートフォリオにeラーニングの取組の様子を残します。

新電子ポートフォリオシステムを使いこなし、学生と教員間のコミュニケーションを密にして、学生の学びの様子を知った上で、学生にアドバイスを与える事によりわれわれ教員の教育力を高めたいと思います。

平成23年度D5臨床実習報告書

歯学教育研修センター長 長谷川篤司

平成22年度から作成している臨床実習報告書の平成23年度版を作成しました。報告書は2つのセクションからなり、第1は学生からの自己評価の集計、第2は教員からの症例数の報告です。

前者は臨床実習生がシラバスに記載された到達目標を意識して臨床実習に臨むことを企図しています。各四半期終了時に該当シラバスの到達目標の達成度を自己評価させることにより、学生本人は課題(到達目標)をどのくらい習得できたかを自覚でき、次の四半期への動機づけが期待されます。一方、指導者側は学生が習得しにくい課題を確認して授業方略やシラバスの整備が容易となります。全体的には、昨年度報告書よりも達成度の向上が確認されました。これが①学生の動機づけが向上したため、②教員の指導方法が向上したため、③シラバスが整備されたための成果であると期待しています。

後者から、学生の診療参加経験が多かった代表的課題(1学生あたりの平均症例数)は医療面接(7.8)、プラークコントロール(2.9)、スケーリング(5.0)、抜歯(3.2)などでした。一方、レジン修復、歯内治療、ルートプレーニング、支台歯形成などについては今後診療参加機会が増えることが期待されています。臨床各科の担当者の臨床実習への真摯な取り組みに深く感謝いたしますとともに今後とも一層の努力をよろしくお願いいたします。

行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 8月 4日(土): 歯学部オープンキャンパス(洗足)
- 8月23日~8月24日: 富士吉田 PBL WS
- 8月25日(土): 歯学部オープンキャンパス(洗足)
- 9月 1日(土): 大学院秋季入学試験
- 9月 8日(土): 歯科病院臨床研修歯科医師 採用試験
- 9月 9日(日): 歯学部進学説明会(旗の台)
- 9月29日(土): 富士吉田父兄会

認定医・専門医などの取得

広報委員長 井上 富雄

歯科放射線指導医 取得

口腔病態診断科学講座 歯科放射線医学部門
木村幸紀、花澤智美、松田幸子

平成24年度神奈川県各歯科大学 同窓・校友懇話会が開催されました

歯学部長 宮崎 隆

本学同窓会神奈川県支部が当番校として、去る6月28日(木)に、平成24年度神奈川県各歯科大学同窓・校友懇話会が、中華街に近いホテルモントレ横浜で盛大に開催されました。本学が当番校になったのは平成14年について二回目で、宮治俊朗支部長を始め、同窓会神奈川県支部の先生方が準備にあたられました。

当日は午後4時から、株式会社アントレプレナーセンターの福島正伸氏が「人を育てる～究極のリーダーの在り方～」と題して、自立型人材の育成とメンターの役割について講演されました。学生教育の現場にも当てはまる興味深い内容でした。

懇話会は、午後7時から宮治支部長の開会の挨拶で始まり、来賓として高橋紀樹先生(神奈川県歯科医師会長)と富田 篤先生(神奈川県歯科医師連盟会長)の挨拶に引き続き、参議院議員の石井みどり先生と西村まさみ先生からタイムリーな政局の話題が披露されました。各大学同窓会からの出席者約170名が和気藹々と楽しいひと時を過ごし、午後9時に葉紹誠副会長の挨拶で閉会しました。

神奈川県では1回生の鍵和田 宏先生をはじめ、多くの同窓生が神奈川県歯科医師会、並びに傘下の歯科医師会の役員として活躍しています。今後も多くの同窓生が益々活躍されることを期待しています。



第32回昭和歯学会総会開催される

昭和歯学会 常任理事 中村雅典

7月7日土曜日に歯科病院第2臨床講堂で第32回昭和歯学会総会が開催されました。本総会では、特別講演1題、研究紹介講演2題(片岡竜太教授、美島健二教授)、上條奨学賞受賞講演1題(山口徹太郎講師)、一般講演19題が発表されました。

特別講演はクインテッセンス出版株式会社代表取締役 佐々木一高氏から「歯学図書38年を通じて見た歯学界の発展と現状と未来への展望」というタイトルでご講演いただきました。佐々木氏はこれまでご自身の会社で発行された歯学図書内容の変遷を踏まえ、これからの歯科医学・臨床の方向性についての貴重なご示唆をいただきました。歯学教育学部門教

授片岡先生は「口腔医学教育について」というタイトルで、昭和大学並びに歯学部の教育理念とコンピテンシー達成のための学部教育ならびに4学部連携教育の詳細と展望についてご講演されました。口腔病理学部門の美島教授からは「唾液腺の機能障害とその回復」のタイトルで、ご専門の唾液腺病態とその機能・構造回復について最新の先生ご自身のデータもお示しになりながらご講演いただきました。山口先生は「顎口腔領域における疾患と形質の遺伝因子を解明する」のタイトルで、これまで先生がご研究されてきた顎顔面領域の疾患の原因遺伝子の特定とその解析法についてご講演されました。

一般講演は、基礎・臨床ならびに学生による発表もあり、各演題では活発な質疑応答が行われました。また、昨年度で御退官された久光先生、古屋先生、江川先生が名誉会員に推薦されました。



大学院歯学研究科説明会のご案内

歯学研究科運営委員長 佐藤裕二

7月3日の夕刻、説明会が開催されました。集まったのは研修医33名と6年生17名と外部の一人でした。ワクワクした大学院生活を過ごし、研究マインドを持った良き歯科医師になることを願っていることを熱く伝えました。勉強や仕事が終わった後の遅い時間でしたが、みんな真剣に聞き入っていました。全体説明の後、9教室からの教室紹介がありました。

まずは秋季入学の試験が9月1日に行われます。

説明会は今後、9月4日の17:30、11月20日の9:00、12月14日の17:00に歯科病院臨床講堂で開催予定です。入試の詳細については、昭和大学ホームページ > 学部・大学院 > 大学院歯学研究科 > 入試情報をご覧ください。

日程	秋入学	春入学Ⅰ	春入学Ⅱ
願書締切	8/10	11/26	2/8
試験	9/1	12/8	2/16
合格発表	9/20	12/20	2/27
入学式	10/2	4/6	4/6

診療統計(平成24年 6月分)

歯科病院医事係長 村田 久子

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	19,073	733.6	745.3	719.5
入院患者	450	15.0	11.0	12.2

Bernd-Spiessl シンポジウムで発表 しました

歯科矯正学講座 槇 宏太郎

6月14日からスイスのバーゼル大学で開催された第8回 Bernd-Spiessl シンポジウムという小さな会に参加してきました。

故 Bernd Spiessl 教授は、ドイツ出身の外科医で、1965年からバーゼル大学で初めて顎顔面外科を主宰された先生です。ヨーロッパにおける顎顔面外科興隆の第一人者として、広く世界中に知られております。とても敬虔なクリスチャンで人格者だったそうです。このシンポジウムは、彼の亡き後、薫陶を受けた人々がバーゼル大学に集い、学術的な進歩を報告しようと始まったそうです。

ドイツ、フランスなどヨーロッパ各地から顎顔面外科医や形成外科医が集い、顔面全域の移植から外科矯正まで、多岐に渡る講演がありました。小さな会だからこそ、ヨーロッパ顎顔面医療の中心的存在の方々と意見交換でき、異分野の私にとっても大きな収穫となりました。日本からは、瀬戸院一先生(前鶴見大教授、初の日本人留学生)が参加されておりました。

緑の森に囲まれた晚餐会でも、数々のエピソードから、一人の外科医の真摯な教育によってもたらされた医療技術の拡散と伝搬にあらためて感動しました。教育の根底に触れることが出来たような気がします。



第17回夏季スポーツ大会壮行会が開催 されました

歯学部学生部長 上條 竜太郎

第17回夏季スポーツ大会壮行会が7月13日に開催されました。

5時から1号館7階講堂で、富士吉田教育部・体育学堀川木教授が「コンディショニングを考える」と題してご講演され、引き続き5時30分から1号館5階会議室で、壮行会が開催されました。医学部の宮崎学生部長が開会を宣し、片桐学長が訓辞を述べ、挨拶は小口理事長、4学部を代表して久光医学部長、瀧本父兄会副会長がそれぞれ行いました。医学部同窓会学内支部長である門倉教授(外科学 胸部心臓血管外科学部門)から、体連4クラブ、文連2クラブに支部奨励助成金が授与されました。アイスホッケー部主将イズデブスキ龍也君(M4)の選手宣誓に続いて、グリークラブによる校歌斉唱をもって終了致しました。

懇親会ではまず、応援指導部による迫力あるエー

ルが会場内に響き渡り、宮崎学生部長の乾杯により会が始まりました。大会での健闘を誓う各クラブの学生の活気で会場内が満ちあふれる中、板部薬学部学生部長が閉会を宣し、閉会となりました。



学部連携アドバンスト病院実習を体験 しました

D6 石原 央記

このたび私は「学部連携アドバンスト病院実習」を昭和大学病院救急医療センター(三次救急)で薬学部3名の学生と2週間参加しました。意識のない急性期入院患者への歯科的介入、口腔衛生と誤嚥性肺炎および人工呼吸器関連肺炎(VAP)との関連性に興味があり、本実習を選択しました。

救急医療センターでは、患者の全身状態が悪いため、誤嚥性肺炎やVAPが発生していました。歯科医師や歯科衛生士の数が不足しているため、一人ひとりの患者に十分な歯科医療や口腔ケアを提供することが難しい状況でした。意思の疎通をとることができない状態で、くいしばりをしている患者さんや1cmほどしか開口できない患者さんに口腔ケアを実施することや口腔内を診察・検査することの難しさを経験しました。患者さんの開口を促すために反射を利用したり、咀嚼筋の緊張をほぐしたり、あるいは待つということもしました。この2週間は、教科書や文献を調べたり、質問をしたりと、これまでここまで自分の頭を使ったことはありませんでした。

歯科医師過剰時代と呼ばれている時代ですが、歯科医師が活躍できる、そして活躍しなければならない現場がまだまだあると思いました。今回、歯科医師がより積極的に介入することで患者さんの全身状態が改善する現場を実際に体験できました。

この実習で学んだ多くのことや考え思ったことを、今後の学習、研修や治療に生かし、患者さんや社会に還元していきたいと思います。最後に、この実習に協力して下さった皆様方に、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

編集後記 小児成育歯科学講座 小田 訓子

いよいよロンドンオリンピックが始まりました。時差の関係から、リアルタイム観戦は少し難しいがありますが、数多くのドラマが起こっているようです。

末筆になりますが、いつもお忙しい中、原稿を執筆して頂いた皆様に心より感謝申し上げます。